

## 2 博物館実習

大学及び短期大学における博物館学講座の単位習得の一環として、博物館学を履修する学生を一時的に受け入れ、博物館現場における知識及び技能を修得させることにより、人材の育成を図ることを目的として実施している。開設日時とカリキュラム、および受入先は次のとおり。

(実習担当者：角田 新)

### 実施日時と内容

8月19日(月)	9:30～10:00	開講挨拶・オリエンテーション
	10:00～11:00	館長講話
	11:00～12:00	講座①「美術館と学芸活動」
	13:00～13:30	見学① 館内
	13:30～14:30	見学② 所蔵作品展
	14:30～15:30	講座②「総務(全般・予算・広報)・施設管理について」
	15:30～16:00	広報企画実習①(課題説明)
8月20日(火)	9:30～10:30	講座③「対話型鑑賞」(講義と実践)
	10:30～11:30	広報企画実習②(発表・ディスカッション)
	11:30～12:00	ワークショップ実習①(概論)
	13:00～16:00	ワークショップ実習②(企画立案)
8月21日(水)	9:30～10:30	講座④「美術館の展示環境・展示手法」
	10:30～12:00	講座⑤「金曜ロードショーとジブリ展」の見学に代えて 「企画展の意義と実施の工夫」
	13:00～14:00	作品取扱い実習・調書作成①(日本洋画)
	14:00～15:00	作品取扱い実習・調書作成②(日本画)
	15:00～16:00	ワークショップ実習③(展開)
	8月22日(木)	9:30～10:30
10:30～12:00		ワークショップ実習④(集約)
13:00～16:00		ワークショップ実習⑤(制作)
8月23日(金)	9:30～12:00	ワークショップ実習⑥(発表準備)
	13:00～14:30	ワークショップ実習⑦(発表)
	14:30～15:00	受講生ディスカッション
	15:00～16:00	振り返り

### 受講生所属大学

尾道市立大学、京都芸術大学、県立広島大学、神戸大学、東京工芸大学、比治山大学、広島市立大学、広島大学、広島女学院大学、安田女子大学(10大学、計22名)

## 広報企画実習

大学生をターゲットとして、当館所蔵作品展の広報企画立案を行った。初日にワークシートを配布し、まずは各自で企画案を考えてくることを課題とした。2日目は5班に分かれディスカッションし、受講者は各々の案を他の班員と共有し、ブラッシュアップしたのち一つの企画とし班ごとに発表を行った。SNSで所蔵品にまつわる連載漫画を活用するアイデア、あるいは交通広告にQRコードを積極的に活用することや、SNSを使った広報では画面上でのクオリティを維持しなければ拡散しない、など企画案もさることながら様々な視点から多彩なアイデアが提示された。

## ワークショップ実習

メインカリキュラムでは、「当館で開催するにふさわしいワークショップ」を企画することとし、その際、どのような視点から当該ワークショップを企画するのか、美術館や美術文化、あるいは地域といった枠組みも含め、なぜ、どのような目的で、そのワークショップを開催するのかを明確に意識しながら企画を立案することとし、模擬的なワークショップを設計した。受講生は5班に分かれ、グループワークにより、各班で趣旨・目的、ターゲット、実施意義、等に応じたワークショップ内容、ワークショップ全体のテーマを決定。自身が注目した切り口を出発点としながら、調査や準備を通じてワークショップへの理解を深め、さらに参加者目線に立った実施内容を検討することで、学芸員の仕事を追体験した。各班のテーマ、対象者、内容は次のとおり。

①	縮景園のもみじで作るリースとランプ(対象：12歳以下の児童と保護者のペア) 参加者が縮景園で集めた落ち葉を使う工作ワークショップ。自然に触れながら歴史や文化を学ぶことで、美術館と地域のつながりを強め、地域の魅力を伝える。縮景園と美術館をつなぐ効果が期待される。
②	県美ゆかりの作家を知ろう(対象：小学校1～6年生 保護者同伴) 広島県立美術館所蔵の菅井汲と六角紫水の作品を参考に、菅井作品からはオリジナルのマーク制作を、また、六角紫水作品からは既存の箱への加飾を体験することで、対象となる作品以外の様々な分野の美術に対しても理解を広げ、興味を深めてもらう。
③	作品をコラボメニューで表現してみよう(対象：中高大学生) 美術に興味の薄い参加者にも興味を持ってもらえるよう、所蔵作品について対話型作品鑑賞を行い、その感想をもとに架空のコラボメニューを考え、イラストを描いて視覚化する。一連の作業を通して、参加者に対して美術に対する興味の糸口を提供する。
④	ダブルイメージって何？ダリになりきって縮景園をスケッチ(対象：小学校3年生～中学生) 広島県立美術館ならではの特徴として、所蔵品からダリの《ヴィーナスの夢》を、また立地の特徴から隣接する縮景園を抽出し、ダリの多用したダブルイメージの手法を用い、参加者に縮景園のスケッチを行ってもらおうワークショップとした。むつかしいと思われがちな美術のハードルを下げ美術館に親しみを持ってもらう効果を期待。
⑤	大竹和紙で作るランプシェード(対象：小学生1・2年生は保護者同伴) 地域の文化財に興味を持ってもらうため、地元の特産品に対する理解を深め、本物に触れ、地域との交流の場となる機会を提供する。また、定期的開催することで季節の変化を感じるなど、様々な感性をはぐくみ、参加者の美術作品鑑賞体験を深める機会を提供する。